

ことのほ



特集

コロナ禍で生まれた
新たな実践！
～オンライン活用編～

こちらもぜひチェックしてください！

右のQRコードを読み取ると、法人ウェブサイトに移行します。<https://www.manyounosato.or.jp>



(紙面では、コロナ禍以前に撮影した写真や撮影時にマスクを一時的に外している写真等を掲載していますのでご了承ください。)

特集

コロナ禍で生まれた 新たな実践！ ～オンライン活用編～

新型コロナウイルス感染症の流行は、テレワークの導入や、ビデオ会議システムの利用拡大など、社会に大きな変化をもたらしました。その影響は、福祉分野にも広く及び、事業の継続運営のために、今やオンラインシステムは欠かせないものの一つとなりました。
今回は、オンラインを活用したコロナ禍で生まれた新たな取組の一部をご紹介します。

9

September

29 水

オンラインで利用者自治会！

生活介護事業（太陽）では、利用者自治会をオンラインで開催しました。2階・3階の各活動室から、5つのグループの利用者さんが会場を分けて参加しました。

画面上で、利用者さん手作りの名刺を交換し、自己紹介を行うなど、一堂に集まって開催していたコロナ禍以前の自治会とは一味違った交流の機会になりました。



10

October

21 木

オンラインで地域を越えた交流！

障害のある方の歯と口の健康づくりを地域で考え、発信する集い「歯ミカップ（歯みがきワールドカップの略）」がオンラインで開催され、生活介護事業（太陽・この里）の利用者さんが参加しました。

近隣6市の施設から取組発表があり、太陽が施設大賞を受賞しました！表彰式では画面越しに拍手が響き渡りました。

10

October

22 金

11

November

1 月

オンラインで職員研修！

全職員を対象に、令和3年度はオンラインで虐待防止研修を開催しました。「安心してのびのびと働ける職場づくり」をテーマに、総勢104名の職員が受講し、心理的安全性や虐待を発生させない組織づくり等について学びました。グループでの演習を通じて、部署を越えた交流と学びの時間となりました。

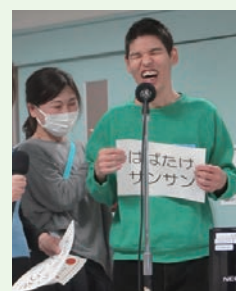




スケジュール

15日(月)10:30～11:30 開会式・バンド演奏

利用者さんの開会宣言を皮切りに、おまつりウィークがスタート！就労移行支援事業所レジリエンスさんによるバンド演奏に合わせて、明るく元気な歌声が会場中に響き渡り、大盛り上がりでした。



開会宣言



歌声を披露する利用者さん

16日(火) 太陽スペシャル音楽

17日(水)10:30～11:30 この里お仕事体験

封筒作成とミサंगा作りをライブ体験！小型カメラを使って作業手順を各会場のスクリーンに投影し、質問や感想を共有しながら、皆で一緒に取り組みました。



封筒作成



ミサंगा作り

17日(水)13:30～14:30 チーム対抗ボッチャ大会

3つの会場ごとに赤・青の2つのチームを組み、対抗戦を行いました！各会場の試合結果を集計し、合計得点を競います。各会場ともに接戦が繰り広げられ、青チームが総合優勝を果たしました。



18日(木) 販売日

19日(金) この里フラダンス体験・ビンゴ大会・閉会式

展示



障害者センター通所事業と地域活動支援センターつばさアートサロン利用者が絵の具等を使って色付けした台紙を組み合わせ、万葉の里ロゴマークを共同制作しました！

「音質」「画質」

「各会場の画面上の見え方」の3つをポイントに、準備をかさね当日を迎えました。開催中はさまざまな機材のセッティングに追われながらも、利用者さんの笑顔が多くみられ、励みになりました。1週間を通して今回のおまつりでチャレンジしたことを自信につなげ、日々の利用者さんとの活動や事業所間交流などに活かしていきたいです。



第18回おまつり
実行委員長

まつばら まお
松原 真生さん

Illustration: KaMo

障害のある市民やそのご家族が
困ったときに相談できる窓口
国分寺市障害者基幹相談支援センター



「誰もが安心して自分らしく暮らせるまちづくり」を目指して

国分寺市障害者基幹相談支援センター（以下「基幹」という）は、地域における相談支援の中核的な役割を担う機関として、平成24年4月に設置され、今年4月で10周年を迎えます。これもひとえに、皆さまの障害福祉に対するご理解・ご協力のおかげです。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

基幹は、障害のある方のニーズの複雑化や求められる福祉サービスの多様化を背景に、専門性のある相談窓口として、誕生しました。これからもフットワークを軽く、関係機関や地域の皆さまとの細やかな網の目づくり（ネットワーク）を通じて、国分寺市全体に地域のネットワークを巡らせ、誰もが安心して暮らせる「まちづくり」を進めていきます。（センター長 銀川 紀子）



★七色のマフラー

「多様性」を表しています。

★4色の毛糸玉

基幹の事業の4つの役割を表しています。

★「基幹」の「幹」

10年目の成長を表しています。

① 専門相談

障害や難病のある方の暮らしの心配ごととの相談を受けます。ご家族のほか、関係機関からの相談も受け付けています。

② 地域との連携

研修会を開催し、地域や関係機関との連携を深め、地域のネットワークづくりを行っています。

④ 権利擁護・虐待防止

成年後見制度の普及啓発や、虐待防止の取組を行っています。

③ 地域移行・地域定着

精神科病院や入所施設で長く過ごしている方に国分寺で安心した暮らしを支援します。

イメージキャラクター「とわぶる」

基幹設置10周年を記念して、地域のネットワークを編んでいる羊をイメージしたキャラクターを制作し、この度、愛称が決定しました！ウェブサイトや雑誌等で広く募集し、日本全国から532名、1,002点の応募をいただきました。素敵な名前をお寄せいただいた皆さま、本当にありがとうございました。選考結果などの詳細は基幹のウェブサイトよりご覧いただけます。





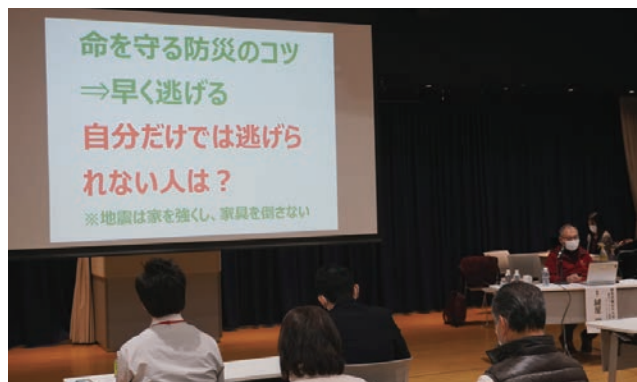
基幹の事業や取組の一部をご紹介します



グループワークを通じて、支援者同士の顔の見える関係づくりにもつながっています。

スキルアップ研修の実施

障害のある方やご家族に対して、生活上のアドバイスや必要な支援のコーディネート（支援計画の作成等）を行う相談支援専門員を中心とした支援者向けの研修を定期的に開催しています。これまでも、「8050世帯を支える支援体制とは」「子ども理解への道」「障害者の性教育と性支援」などをテーマに開催し、支援者のスキルアップの機会を提供しています。



日頃から、定期的な避難訓練や備蓄品の準備、地域とのネットワークが大切になることを学びました。

地域とのネットワークづくり

障害のある人もない人も、国分寺市民として自分らしく暮らせる「まちづくり」をテーマに、支援関係者が課題を共有し、その解決に向けた話し合いを行っています（自立支援協議会）。令和3年12月には、「災害時における障がい者支援とは」をテーマに、福祉関係者や防災に関心のある市民が一緒に、災害時の支援体制づくりについて学びました。



表

裏

日頃の感謝の気持ちを込めて、基幹の研修等にご参加いただいた方など、関係者の皆さまにお渡ししています。

基幹オリジナル「とわぶる」クリアファイルを制作

入所施設や精神科病院で長期間過ごしている方が地域で暮らすためには、施設や病院との連携が不可欠です。国分寺市では、精神科病院を訪問する等、病院との関係づくりや、退院支援に向けた協議を行い、地域生活の実現に向けた道筋を描く取組を進めています。

「施設・病院」から「地域」に向けた支援

相談窓口のご案内

- 対象者：障害のある国分寺市民（身体・知的・精神・難病）とそのご家族
- 開所日：月～土曜日（日曜・祝日、年末年始を除く）、午前8時30分～午後7時
※土曜日は、午前8時30分～午後5時まで 電話：042-320-1300 FAX：042-313-8823
- 場 所：国分寺市東戸倉2-7-26 KOCO・ジャム2階



今号より、万葉の里の関係機関・団体の方々にスポットをあてた新コーナー「Let's（レッツ）」がスタートします。

第1回は、障害者センターの通所事業を利用する皆さんへの給食提供業務を担っている「日清医療食品株式会社」の調理師細谷奈穂美さんに、日々の仕事に対する想いを伺いました。

新企画！
Let's

給食



毎朝 8時から、順次 5名の職員で仕込みに入り、50食前後の給食を提供しています。

安心で安全な給食提供

Q 給食を提供する上で、日々心がけていることを教えてください。

指定された食材や調味料の中で、美味しくなることを心がけています。また、給食はレストランと違い、調理から配膳まで時間があり、適切な温度で提供する必要があるため、配膳のタイミングに合わせてセッティングします。もちろん、食中毒にも気をつけて衛生管理を行っています。

Q 安心・安全への配慮は、調理室の清潔さから伝わってきます。細谷さんご自身が仕事をする上で、気をつけていることはありますか？

毎日、往復26kmの道のりを自転車で通勤し、健康管理には気をつけています。もともとは交通の便の都合で始めた自転車通勤でしたが、それが高じて自転車が趣味となり、現在はロードバイクで通勤しています。今の自転車が何台目になるかは内緒です（笑）。

給食を食べる人の笑顔のために

Q 年に数回ある「イベント食」の提供にあたり、工夫していることがあれば教えてください。

通常の献立づくりは栄養士が行っていますが、イベント食や特別メニューの時は、一緒にやってみたいことを出し合い、時間内に提供できるかなど、2人で相談して決めています。

春と秋はお弁当給食、クリスマスはピュッフェやコーススタイルで提供しています。特にデザートは色々工夫し、昨年開催したミニ縁日では「ビールゼリー」を提供しました。りんごゼリーをビールに見立て、泡は牛乳に寒天を加え、泡立て器で混ぜながら固めて作りました。料理は、味と見た目が大事なので、見た時に喜んでいただくことも意識しています。



④一つひとつ表情が違うハロウィンのデザート「おばけプリン」

⑥思わずのどが震える!?「ビールゼリー」

新たなチャレンジに向けて

Q その他にも、一風変わったメニューが登場することがありますね。

休日に自転車で足を延ばし、出会った美味しいものからヒントを得て、給食の献立に活かしています。これまで、埼玉県川島町のB級グルメ「すったて汁」（冷や汁にうどんが入っている料理）や、青梅市にあるお店の「カレーうどん丼」（ご飯にカレーうどんがかかった料理）などは給食に取り入れたことがあります。安心・安全が一番ですが、その上で利用者の皆さんが楽しめるようなメニューに挑戦し、できる範囲でこれからも取り入れていきたいと思っています。

給食を通じ、これからも利用者さんへ「美味しい」「楽しい」を一緒に届けたいと思います。



Let's deliver a delicious lunch together !

職員リレー紹介



ぶとう しんや
武藤 真也

通所支援1課 生活介護事業太陽
勤続年数：4年
好きな言葉：全力投球
趣味：鉄道旅

私は小、中、高校と野球を続けてきました。野球はチームスポーツであるが故に、チームワークが良くなければ、個々の力を最大限に発揮できません。

福祉の仕事も野球と同じようにチームワークが必要不可欠です。チームワークを高めるための要素として、私はお互いに尊重し合うこと、認め合うことが必要だと思います。

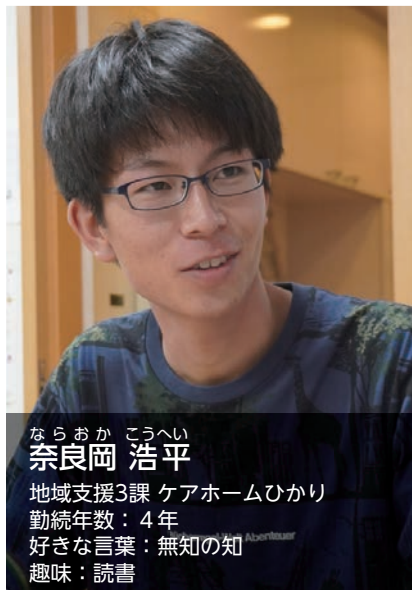
利用者さんが毎日楽しく、その人らしい生活をするためにサポートすることが支援員の役割ですが、職員が楽しく充実した仕事ができなければ、利用者さんの笑顔は生まれません。

利用者さんが毎日楽しく過ごせるように、どのようなアプローチが必要なのか、常にその意見や考えを出し合いながら様々なことにチャレンジしていきたいと思います。そして、自分が利用者さんの立場に立った時に、太陽に通い続けたいと思える場所でありたいです。

私たちは、今後もチームであることの強みを最大限に活かしながら、利用者さんと共に前に進んでいきたいと思っています。



むらやま ちか
今回は村山 愛さんの紹介です



ならおか こうへい
奈良岡 浩平

地域支援3課 ケアホームひかり
勤続年数：4年
好きな言葉：無知の知
趣味：読書

利用者支援で一番大事にしていることは、コミュニケーションです。利用者さんの中には、私よりも人生経験が長い方や感情表現が豊かで、独自の表現をされる方もおられます。時に言葉や身体の動きで表現することが難しい場面があり、ストレートに気持ちが伝わりにくいことで、落ち込んだり、気持ちとは違う行動をとられることもあります。

そのような時は、日々の支援や過去の出来事から利用者さんの考えや想いを探り、気持ちの理解に努めます。一つひとつ丁寧に気持ちを汲みとると、モザイク画が完成するように豊かな一人の利用者さん像が見えてきます。また、そうした関わりを続けることで、利用者さん自身から希望や想いを表現できるように変化することもあります。

私一人との関わりでも、どんな些細なことでも、利用者さんの気持ちの変化のきっかけになれば、支援者としての役割を少しは果たせたのかなと感じます。これからもコミュニケーションを大事にしていきたいです。



かわかみ けいぞう
今回は河上 恵三さんの紹介です



しみず ともこ
清水 智子

通所支援1課 生活介護事業太陽
勤続年数：3年
好きな言葉：温泉三昧
趣味：外遊びにチャレンジすること

入職まもなくは、まず利用者さんとの関係性をどう作っていくか、先輩職員の動きを見て、アドバイスを受けながら手探りの日々でした。言葉通り、言うは易し、行うは難し。「ああしたい」「こうできればいいのに」との思いと現実との距離をひしひしと感じていました。

そのような中でも、利用者さんと心が通う瞬間や「こんなことでできるんだ!」という新たな発見から、頭で考えるよりもまず関わることに、関わりを通して声に出せない思いを受け止められるようになることが大切なのだとの思いに至るようになりました。雑誌をめくるのが大好きな人がその力を活かして紙ちぎりを提案し、作業しやすくちぎられた紙をシュレッダーが得意な人が引き継ぐ…職員、利用者さんとの日常の関わりから、素敵な循環が生まれています。

コロナ禍ではありますが、少しずつ行事や外活動を再開しています。利用者さんとたくさんの時間を過ごし、魅力的な太陽をつくっていきたいと思っています。



かめたに あゆみ
今回は亀谷 歩さんの紹介です

いやしけ吉の事

〜いろいろなことがありますよ〜

「はばたけ!! サンサンゆめまつりウィーク」が、令和3年11月15日から19日まで開催されました。

令和2年度はコロナ禍で、おまつりそのものが中止になってしまいました。一昨年度はどのように行っていたんだろうかと、当時のチラシをみせてもらいました。障害者センターを1日開放し、多くの地域住民や来賓の方々をお招きし、施設や敷地全体を使って、出店や福引大会、鉄道模型展示ステージなどが設けられ、おまつりが行われていました。「はばたけ!! サンサンゆめまつり」は、センターを知っていただくこと、利用者と地域住民の方々との交流の場をつくる良い機会であったことが伺えました。

ところで、コロナ禍がまだ収まりきれていない今年は、まだ一昨年と同じような規模・内容で行うこともできず、私も気になっていました。実行委員の職員から出されたアイデアは、主に利用者を中心に、オンラインで、障害者センターとKOCO・ジャムを結び、1日のイベントに終わらせるのではなく、曜日ごとにイベント企画を組

んで、おまつりを「ウィーク」として開催するとうものでした。

最初はどのようなになるのか、私もイメージが掴めませんでした。当日の多目的室のセッティングを見たら、結構、本格的。「うー、凄いな!!」の一言。私もカメラの前で、挨拶をさせていただきました。硬い挨拶はやめて、職員にお願いし、アラスカでのシルバーサーモンの釣果の^{ちやうか}写真を見てもらい、「私と会ったら『釣りおじさん』と声をかけてください!!」と話したら、画面越しの利用者から、「釣りおじさん!!」の一斉コール。「何とうまい仕込み!!」と感心。

私が一番感激したのは、その後のバンド演奏でした。演奏が始まると利用者の皆さんが思いおみに踊り出し、自己表現をしているのです。そんな皆さんを見ていて、「音楽・歌って素晴らしい!!」こんなおまつりの開催の仕方があっても良い!と思いました。利用者の皆さん、楽しんでいただけたでしょうか。そして、企画をしてくれた職員の皆さん、お疲れさまでした。（理事長 室地隆彦）

編集後記

昨年夏に行われた東京オリンピックは無観客で開催され、競技を終えた選手が、オンラインの画面越しに家族や友人たちと喜びや気持ちを分かち合えるような取組を行っていました。

今号の特集記事では、コロナ禍における各事業のオンラインを活用した企画を取り上げました。場所は離れていても、同じ気持ちや時間を共有することができたことを感じています。これからも上手にオンラインを取り入れて、活動等の充実につなげていきたいと思います。（広報委員会）

* INFORMATION * 第三者評価受審結果と利用者アンケート結果報告について

万葉の里では、利用者の「声」を聞く取組として、第三者評価、利用者アンケートを毎年度実施しています。令和3年度は、「国分寺市障害者センター」において、生活介護、自立訓練、就労継続支援B型、短期入所事業の4事業、「KOCO・ジャム」においては、共同生活援助、短期入所の2事業にて第三者評価を受審しました。また、地域活動支援センターつばさ（指定相談支援事業、障害児相談支援事業）、えんじゅ（日中一時支援事業）にて、利用者アンケートを実施しました。

二つの取組を通していただいたご意見、ご指摘、評価は、職員間で共有し、今後の事業運営とサービス向上に活かしていきます。皆さまのご協力、ありがとうございました。

なお、評価機構による評価結果は、「とうきょう福祉ナビゲーション」のウェブサイトに掲載されています。また、利用者アンケートの結果は、万葉の里ウェブサイトにてご覧いただけます。



第三者評価



利用者アンケート